

この部会への理解の状況です。

- 1) 倫理 行動規範。 食に関わる環境行動規範が主題なのか。
  
- 2) 脱炭素 (CO<sub>2</sub>) 社会と言う用語にまだ納得がいかない。循環社会の方が良い。
  - ①温暖化の主原因として化石燃料から出る CO<sub>2</sub> が指標、あるいは象徴の1つとして使われているということか。
  - ②動植物も人間も、炭素Cを「食べて」生活しているのに (炭素循環)、どうして脱炭素社会と言うのか、以前から疑問に思っており、用語法として納得できない。炭素、水素、酸素は食料の骨格になっている物質ではないのか。
  - ③CO<sub>2</sub> 削減の本質的な問題は、過剰な便利や消費への欲望を煽ること、すべての商品化、金銭儲け効率に換算することにあるのではないのか。
  
- 3) 自然権と食料主権
  - ④自然の中で生業を営み、楽しむ権利は動物人間として生得的であるはずだ。また、自ら食料を得る食料主権は基本的な人権である。
  - ⑤都市民は消費するだけで、生産せず、協力もしない傍観者である。安い方が良い、見た目が良いなど口は出すが、都市の消費者 (寄生) とは何者か。
  - ⑥評論家は有機農業、安全安心と、根拠事実なしに扇動するのみで、自ら現場に出かけず、傍観するだけであった。畑作農業は高い技術と繰り返しの経験がいる。
  
- 4) 生業農耕文化と産業農業文明とは、歴史的には大きな差異変容がある。
  - ⑦自給農耕、直耕。有機農法、自然農法は農耕に親和的である。家族と共に生きるための生業は楽しいが、租税として収奪され、商品として金銭価値評価されることは、苦痛になる。
  - ⑧環境が厳しいところに居住する人やその地域で農林漁業をする人への直接支払い
  - ⑨生き物の文明へ時間をかけて移行 transition するには、自然・人為災害からの回復力 resilience を高める必要がある。これは科学的知識体系ばかりでなく、伝統的知識体系を再評価して、継承するべきである。
  
- 5) 現代文明から移行するためには、環境学習、環境教育を人間の進化の基礎に置く必要がある。
  - ⑪自然体験と生活体験を教育の基盤に置く。
  - ⑫自ら学び、習う方法を教え、育むべきである。
  - ⑬法規制されるのを好まないのなら、自由であるためには、任意に、自律する必要がある。

零次生業、一次産業に敬意を支払うべきである。

生活様式	生業	産業	商業
舞台	家族、むらlocal	都市、くにcity-state	会社、かねglobal company
仕事	生きるために 糧manna、農耕	国のために 租税tax、農業	金のために 商品products、バイオテクノロジー
産業様式	零次	一次～二次	二次～三次
心の機能	感覚の発育	感覚の洗練	感覚の衰微
心の構造	知能の統合化	技術的知能に傾斜	外付け言語・情報に依存特化
進化	生物的、文化的	文明化	過剰便利により退化
様態	生き物	自己家畜化	化け物
個人	自由、自律	服従、隷従	放縦
社会	自然natural 定常、現実	人工artificial 変動、芸術	仮想virtual 流動、虚無

生き物の文明に向かう、過剰な便利を自律する

自己家畜化に抗う

素のままの美しい暮らし

進化：時間と空間の中で、生活様式の均衡をはかる

自給知足